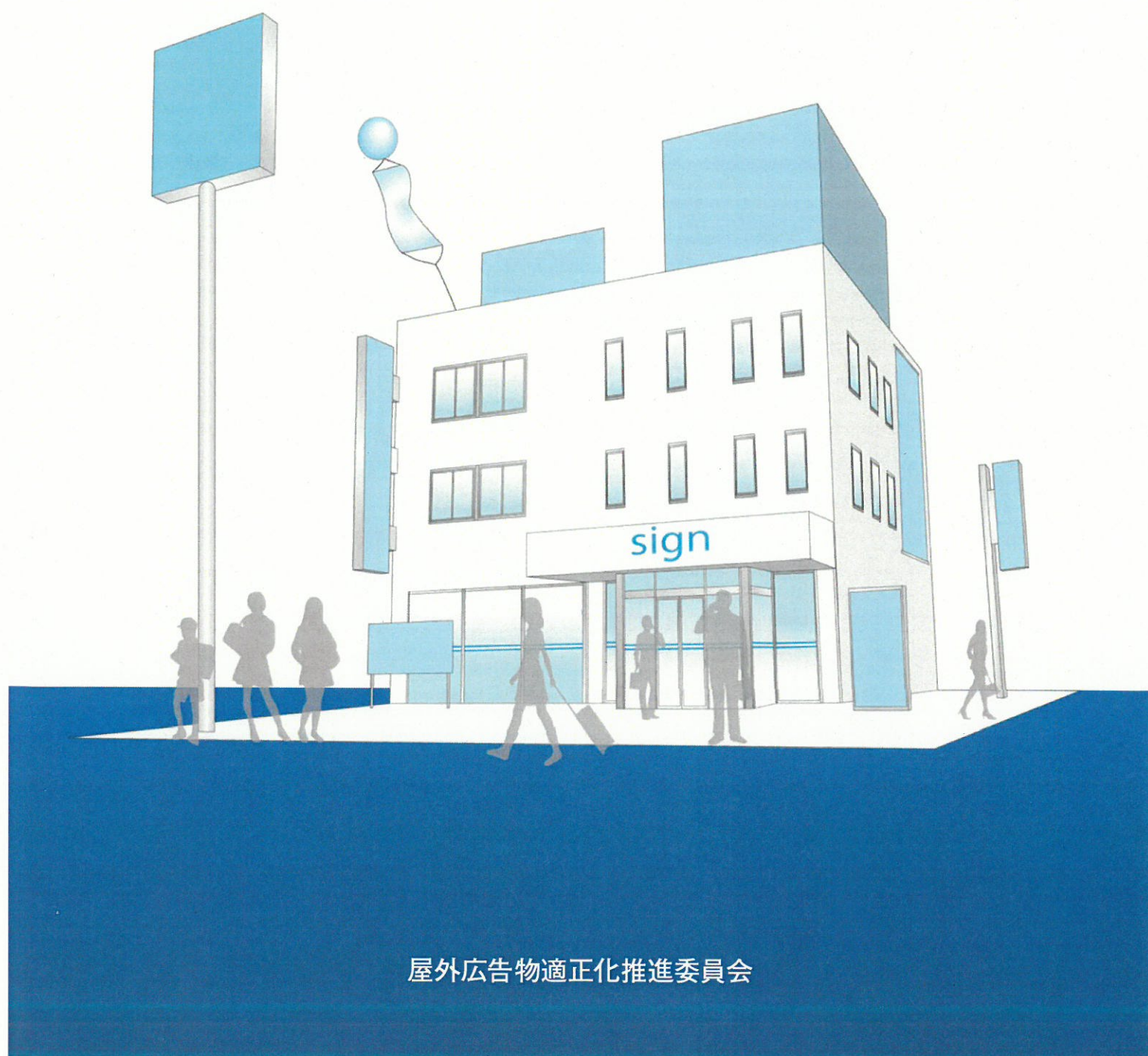


オーナーさんのための 看板の安全管理 ガイドブック



3-1

看板の種類とチェックポイント

そでかんばん つきだしかんばん

袖看板(突出看板)

建物の壁面から突き出しているため、低所に設置すると通行人などがぶつかってけがをする恐れがあります。

屋外広告物条例による基準（地面から看板の下端までの高さ、出幅等）を守り設置しましょう。

また、風圧を受けやすい形状であり、建物の外壁や、ポール（支柱）にボルトなどの取付金具で固定するため接合部分に大きな負荷がかかります。看板の高さが4mを超える場合は、建築基準法に基づく「工作物確認申請」が必要ですが、高さ4m以下の場合も強度計算を行うなど安全対策が求められます。

看板の外側はきれいでも、取付金具や内部鉄骨にサビが浸食し強度を保てなくなる恐れがあります。定期的に高所作業車などによる内部点検を行うことが重要です。



(1) 小型・中型軽量袖看板

内部の造りが簡単でLブラケットや触れ止め棒で取り付けられていることが多いため、脚立などで簡単に点検できる場所に設置しましょう。



(2) 小型・中型鉄骨構造袖看板

高さ4m以下でも工作物と同様に考え、強度計算を行うとともに、ブラケットの防錆処理は**ぼうせいしりょり** 対応年数や設置環境に合ったものにしましょう。

(3) 大型袖看板

高所に設置することが多く頻繁に点検できないため、鉄骨は溶融亜鉛メッキを施すなど防錆処理を徹底しましょう。



CHECK POINT!!

壁面にサビなどの汚ダレがみられる場合は、ブラケットがサビで腐食しています。ひどい場合は看板が落下する恐れがあります。また、板面や押さえ枠のゆがみ、ボルトやビスなどの落下があったら、看板全体の点検・補修をしないと危険。高所からの看板の落下は、人命に関わる事故につながります。直ちに、専門業者に依頼を!

3-2

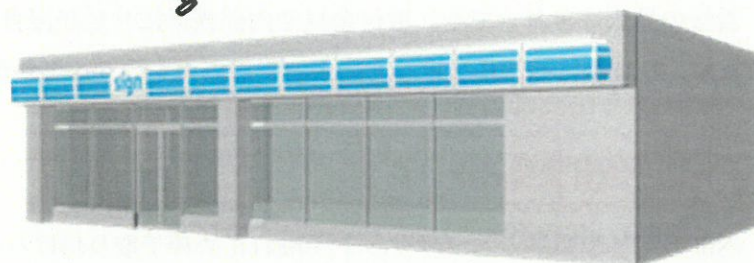
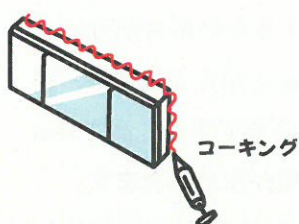
看板の種類とチェックポイント

へきめんかんばん 壁面看板

(1) ファサード看板・内照式片面BOXサイン（欄間看板）

大手チェーン店で最も多く使用されており、間口に応じて様々なサイズでの設置が可能。建物壁面の種類や状況に合わせて、より良い施工方法を選択するよう注意が必要です。

取り付け後は、壁面との取合いにコーキングを行い雨水の侵入を防ぎます。



(2) 壁面ボード看板

パネルボード（複合板）などの縁を固定する安価な看板です。複数枚のパネルを使用する場合は、隣り合うパネル同士をきちんと固定しないと、振動や風などで落下する恐れがあります。長期に使用する場合は、耐久性、経済性の点からオールアルミ製のパネルボードをお勧めします。



CHECK POINT!!

目視で、パネルの変形、ズレ、破損がないかを確認してください。取付ボルトのゆるみや、壁面の劣化状況は専門業者に点検を依頼しましょう。



落下した欄間看板



落下した後の壁面

3-3

看板の種類とチェックポイント

けんしよくかんばん

じりつかんばん

のだてかんばん

建植看板(ポール看板、自立看板、野立看板)

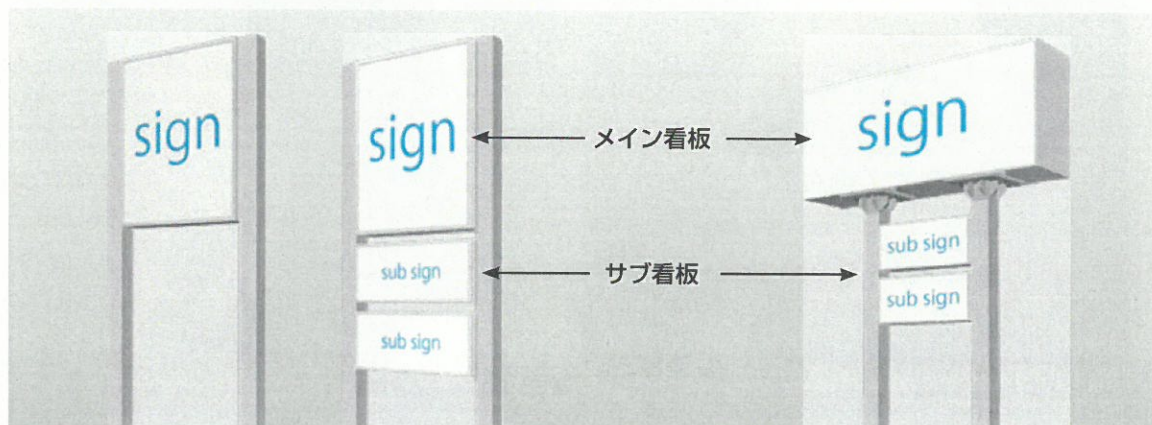
建植看板の代表的な例を紹介します。看板の高さが4mを超える場合は、建築基準法に基づく工作物確認申請が必要です。



両面の建植看板では、先端ポールを基礎ポールに挿し込む「串刺し式看板」が一般的で最も多く見られます。この場合は、先に基礎ポールを設置し、後から先端ポール付の看板本体を基礎ポールに挿し込むことで、強度面も剛性が取れ、施工面も安全です。

「盤上式看板」は見た目には串刺し式と同じですが、構造的には大きな違いがあります。基礎ポールの盤上に看板本体を接合するため、接合部分にすべての負荷がかかります。看板本体には十分な強度が必要です。

大型看板の場合は、「二柱式看板」が数多く使用されており、強度的にしっかりしていますがコストが高くなります。大型スーパー等では、メインの看板の下にサブ看板が複数設置されているものを見かけます。



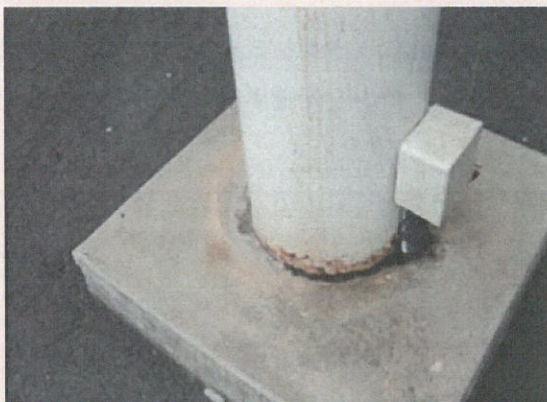
ポール看板では二柱式ポール看板の本体が落下する事故が多く見られます。

設置から年月が経ったものは、基礎ポールの根腐れにより根元から倒壊する恐れがあります。設置の際は、ポールの根元に水がたまらないようコンクリートに傾斜をつける等の注意が必要です。さらに、基礎ポールや看板の鉄骨部分に溶融亜鉛メッキを施すと、サビに強く耐久性が高くなります。

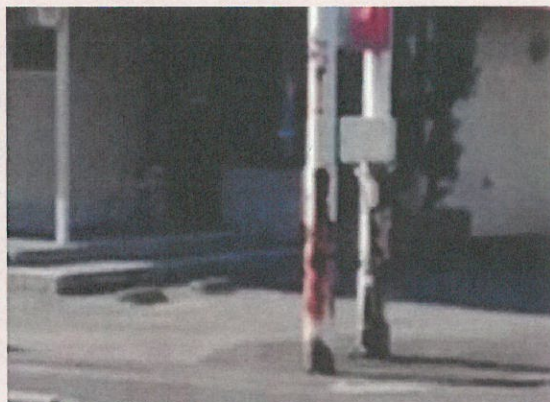
「串刺し式看板」では、看板本体の下端と先端ポールのベースプレートが溶接されている部分に水が入り、先端ポールの付け根が腐食し、看板本体が落下したケースもあります。

CHECK POINT!!

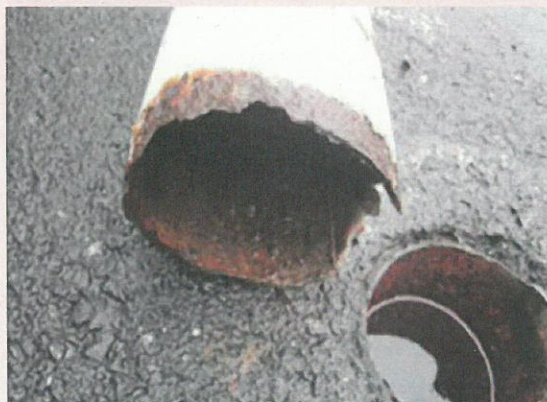
ポールの根元、看板本体とポールの接合部分にサビが出ていないか確認しましょう。
看板本体からポールへの汚ダレにも注意。発見したら専門業者に相談を！



ポールの根元にサビが発生



ポールの根腐れ（実際に倒れた看板）



ポールの根腐れによる倒壊



看板本体からポールへの汚ダレ

3-4

看板の種類とチェックポイント

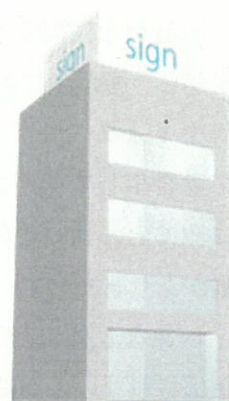
おくじょうかんばん

屋上看板

屋上看板では、経年劣化による耐久性の低下が大きな問題となっています。近年、増加する空きビルには広告の表示がなく、骨組だけが残されているケースが多く見られます。

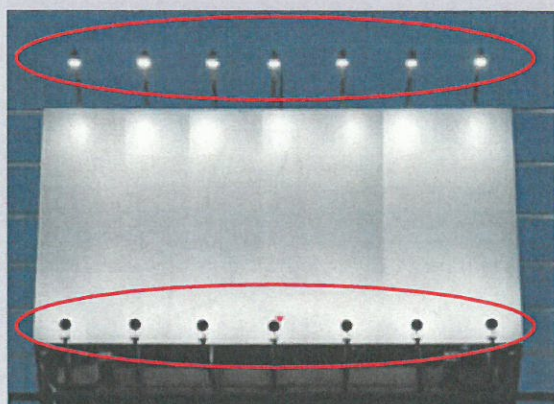
利益を生まない看板は放置されがちです。長年に渡って放置された屋上看板は、サビによる腐食でボロボロになり、撤去工事に危険が伴う場合もあり多額の費用がかかります。外照式の照用器具は、アームや接合部分が腐食して落下する恐れがあります。

自社ビルの屋上看板は、点検を忘れがちです。ご注意ください。



老朽化した屋上広告塔の骨組みは、サビによる腐食でボロボロに。もしも落下したら…

外照式の屋上看板では、照明器具の安全点検も忘れずに！



アーム接合部分の腐食やボルトのゆるみがあると、器具が落下する恐れがある。

屋上看板では、小さなボルトの落下も、重大な事故に。

3-5

看板の種類とチェックポイント

置き看板(スタンド看板)

置き看板を設置する場合は設置場所の状況や人の動線に配慮し、敷地内に置きましょう。

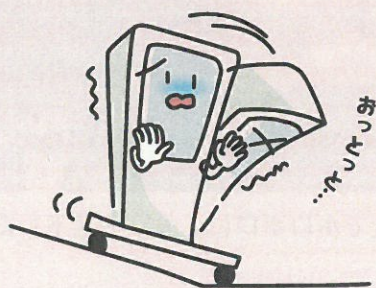
キャスター付きスタンド看板を傾斜地に置くと、勝手に動き出して転倒する恐れがあります。また、歩道などに置くと、通行の妨げになり、交通事故を引き起こす危険がありますので、絶対にやめましょう。

台風など強風が予想される場合は、屋内にしまうか、飛ばされないように固定しましょう。



CHECK POINT!!

キャスターは正常な状態ですか。電源コードは傷ついていませんか。
キャスター付の看板を、傾斜地や歩道などに置いていませんか。



傾斜地に置くと転倒の恐れが



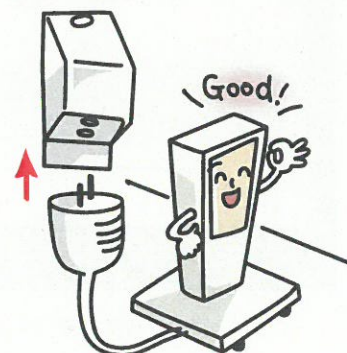
歩道などに置くと通行の妨げに

内照式のスタンド看板のようにコンセントの付いた看板は、「電気用品安全法」を守らなければなりません。



※「特定電気用品以外の電気用品」の「広告灯」に該当スタンド看板を選ぶときは PSE マークのシールを確認してください。

防水コンセント



【詳細は「電気用品安全法」(経済産業省)のホームページへ]
<http://www.meti.go.jp/policy/consumer/seian/denan/>

3-6

看板の種類とチェックポイント アーチ看板

商店街の入口等によく見られ、道路上の空中を横断するアーチ状に設置された看板です。商店街等の団体で所有する場合は管理体制や責任者を明確にし、定期点検スケジュールを作成しておくことをお勧めします。

万一、団体が解散するようなときは、確実な譲渡先を見つけるか、責任持って撤去工事を行うようにしてください。



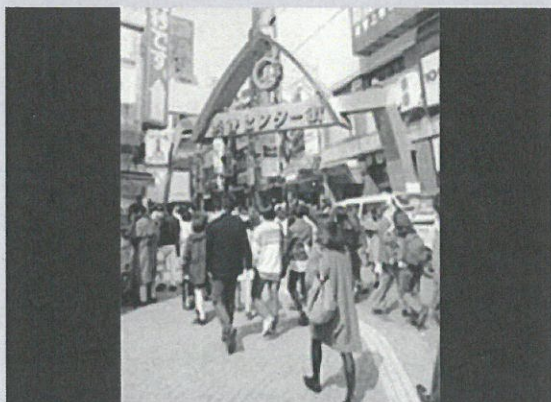
撤去されずに残されたアーチ看板

CHECK POINT!!

根元や本体部分からサビは出ていませんか。
高所にあり、落下事故のリスクが高いため、専門業者に点検を依頼しましょう。

渋谷商店街 アーチ看板落下事故

1997年6月20日台風7号が関東地方に上陸し、強風で渋谷区の商店街入口に設置されていた旧アーケード看板（重さ4トン）が倒壊し、数人が下敷きとなり、男性一人が死亡する事故が発生した。看板製作会社は所有者に点検の案内をしたが、放置されていた。この事故では商店街組合、役員、理事が1億円の賠償金を支払うこととなった。看板の事故は賠償金等の多大なリスクがあることを、お忘れなく。



落下前のアーチ



台風で落下した時の様子